

地域の人とともに育てる子どもたちの道徳心

九十九里町立豊海小学校 教諭 長澤 勇哉



長澤 勇哉氏

一、地域は人材の宝庫

近年、情報化が進むとともに地域社会における人間関係が希薄化している。さらにコロナ禍の状況下において学校教育でも地域の人や社会、自然などと直接ふれ合う機会が乏しくなっている。

子どもの道徳性を高めるためには、学校の中だけでなく家庭や地域との連携の中で育成を図る。私は勤務している九十九里町には、地区の教育を長年見守つてくださっている「大塚安雄さん」がいる。私は九十九里町の小学校に勤務している九年間を通して、大塚さんからたくさんのご指導、ご支援をいただきながら教育実践を行つてきている。

前任校の九十九里小学校では、大塚さんは全校児童の学習活動のサポートをしていた。その成果として、地域に根ざした様々な体験活動を通して、児童が五感を働かせながら経験を積むことによって、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えたり判断したりする力が養われている。

大塚さんが支援されている主な活動として、一年生は朝顔を育て、観察し、つるを使つたりース作り。二年生はトマト・ナス・

の育成が必要である。「令和の日本型学校教育（令和三年一月）」の構築に向けた今後の方向性として、「学校だけでなく地域住民等と連携・協働し、学校と地域が相互にパートナーとして一体となって子どもたちの成長を支えていくこと」が中教審から示されている。

私が勤務している九十九里町には、地区の教育を長年見守つてくださっている「大塚安雄さん」がいる。私は九十九里町の小学校に勤務している九年間を通して、大塚さんからたくさんのご指導、ご支援をいただきながら教育実践を行つてきている。

このような学習活動において、事前に教師と打ち合わせながら、学習のねらいや子どもたちの発達段階に応じて、自ら学びたくなる環境づくりの一部を担つている。大塚さんは打ち合わせの度に「自ら考えて発言したり行動したりすることができる子どもになつて欲しい」と言われる。大塚さんが来られた時には、地域の人が子どもたちの成長を楽しみにして学校教育をサポートしていることを児童に伝え、地

ピーマン等の栽培。三年生は落花生栽培や町探検。四年生は流しそうめん。五年生は宿泊体験学習（特に野外炊飯とキャンドルサービス）。六年生は修学旅行と思い出旅行としてのスキーリング。そして、九十九里浜で行う「なぎさの運動会」や地曳き網体験、塩づくり体験といった海に近い環境ならではの学習活動もサポートして頂いている。





域の人との関わりの中で学びが成立していることを感じられるようになっている。また、大塚さんの思いを子どもたちに直接伝えてもらう場として、活動の前後に子どもたちに向けてお話をしていたいただくことにしている。

そこでは、子どもたちは大塚さんのお話を自分事として聞き、「感謝」や「個性の伸長」「よりよい学校生活、集団生活の充実」等を学んでいる。

指導等、様々な学校行事のねらいを理解した上でサポートをしている。私が前任校に赴任した際にこれまでの学校の歴史、地域の人や保護者の願いをお話しされていたことを今でも覚えて

いる。その意図としては、学校でこれまで継承されてきた実践をもとに、現在、指導に当たっている教師たちに 対して地区の子どもたちの資質・能力を伸ばしてほしいという思いと、地区の教育の未来を担う教師一人ひとりの力量を高めて欲しいという思いの二つが込められているようには感じている。

私は九十九里町に九年間勤務する中で、大塚さんから児童との関わり方や教師としての心構え等、多くのことを学んだ。

それは子どもや教師のみに留まらず、保護者の方々に対しても長年行われてきていることである。

大塚安雄氏の出前授業

三、地域の道徳教育力

前任校には歴代PTA会長の会「英知の会」がある。この会は日頃から学校教育活動を長年にわたってバックアップされている。大塚さんもこの会の一員である。

各地域には、英知の会のような組織や大塚さんのように教師や子どもをサポートされている人物がいる。このような時代だからこそ、地域の人とのつながりを大切にし、

地域の人とともに子どもたちの道徳心を育てていくことが重要であると考える。

ながら、今まで以上に地域の魅力を感じ取らせることが大切である。「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」を育てることは、子どもたちが、地域への愛着を高め、地域の活性化を図ることにつながると考える。また「地域の未来は子どもたちの中にしかない」ということを教師がしっかりと自覚し、地域とともににある学校の実現に向けて、学校・家庭・地域が連携を図りながら子どもたちの道徳性を高めていくことが重要であると考える。



私は九年間勤務する中で、大塚さんから児童との関わり方や教師としての心構え等、多くのことを学んだ。

それは子どもや教師のみに留まらず、保護者の方々に対しても長年行われてきていることである。

大塚氏と児童との触れ合い